

課題整理総括表

利用者及び家族の生活
 本人:夫とこの家で暮らしていきたい。お菓子を作って友人と一緒に食べたり、以前のようにハイキングも行きたい。小さいときからかわいがってきた孫たちが来てくれるとうれしい。
 夫:妻が望む暮らしをかなえてあげたい。自分は大工なので、妻の生活がよくなるように工夫したい。家事も妻がしていたし、介護も自信はないが、長女に手伝ってもらいながら、なんとかがんばりたい。

自立した日常生活の阻害要因 (心身の状態、環境等)	①	②	③
	④	⑤	⑥

状況の事実 ※1		現在 ※2	要因 ※3	備考 (状況・支援内容等)	できること・できそうなこと	改善/維持の可能性 ※4
移動	室内移動	見守り	1,4	つかまり歩きをしている。	リハビリや栄養改善、環境整備によりしっかり安全に移動できるようになる可能性。	改善 ↗
	屋外移動	一部介助	1,4	屋外へは殆ど出ていない。	リハビリや栄養改善などにより、しっかり歩けるようになる可能性あり。	改善 ↗
食事	食事内容	支障あり	3,4	調理できるものがないため惣菜等を食べる機会が多く、栄養バランスが悪い。	栄養指導等で改善する可能性。	改善 ↗
	食事摂取	自立				
	調理	全介助	2,3,4	数回してみたが、味付けができなくなり、現在は行っていない。	調理支援を行えば、ある程度自立する可能性がある。	改善 ↗
排泄	排尿・排便	支障なし				
	排泄動作	一部介助	1,4	移動時に段差があり、夫にトイレまで連れて行ってもらう。一度間に合わなかった事がある。	環境の整備や歩行能力の向上により、自立する可能性あり。	改善 ↗
口腔	口腔衛生	支障なし				
	口腔ケア	自立		部分義歯、自分で洗える。		
服薬	一部介助	2,3	本人が管理しているが、飲み忘れがある。娘が土日に確認している。	服薬の支援を行うことで、飲み忘れが少なくなる可能性。	改善 ↗	
入浴	一部介助	1,3,4	浴室までに段差があり、浴槽への出入りも介助必要。長女が土日に訪問、どちらかで週1回入浴介助をしている。	環境の整備、動作の評価や訓練を行うことで、できることを増やしたり、入浴回数を増やせる可能性がある。	改善 ↗	
更衣	一部介助	1,3,4	屈伸が不自由で、靴下は介助している。	その他の行為についてはゆっくり行える。	改善 ↗	
掃除	全介助	2,3,4	日曜日に長女が訪問して行っている。	声掛け等により、できる範囲の片付けなどは行える可能性あり。	維持 →	
洗濯	全介助	2,3,4	同上			
整理・物品の管理	自立					
金銭管理	全介助	2	夫が管理している。		維持 →	
買物	全介助	2,3,4	日用品は長女、惣菜を夫が買ってくる。		維持 →	
コミュニケーション能力	支障なし	1,3,4	痛みが強い時は話が噛み合わない時がある。	普段は通常の会話に問題なし。	維持 →	
認知	支障あり	5	何度も同じことを聞く、片付けができない。	軽い声掛けなどで行える可能性がある。	改善 ↗	
社会との関わり	支障あり	1,2,4,5	痛みが発生し今年4月以降、ほとんど外出しなくなり、友人との関わりもなくなった。	友人等の支援により、関わりが再開できる可能性あり。	改善 ↗	
褥瘡・皮膚の問題	支障なし					
行動・心理症状 (BPS)	支障なし					
介護力	支障あり	3	近隣に済む娘は土日のみ支援、夫は介護はあまり行ったことはなく、虚弱。	夫は介護などやっていきたいという思いがある。	改善 ↗	
居住環境	支障あり	1,4	屋内段差が多く、手すりなどの設置なし。	環境整備を行うことで転倒リスクを軽減できる。	改善 ↗	

見通し ※5	生活全般の解決すべき課題 (ニーズ) 【案】	※6
医療的フォロー、痛みの緩和、痛みの程度に応じたリハビリの提供、栄養状態の改善、家族への介護指導や環境整備などを行うことで病状が安定し、自宅で健康的で安全な生活が継続できる。	痛みの軽減や病状が安定し、自宅で健康的な生活を送りたい。	1
自宅の環境整備、入浴動作の訓練、評価等を行うことで、自宅内での安全な起き上がり動作、移動や排泄、入浴が行える。	自宅で転倒の心配なく生活をしたい。	2
他者との交流を支援することで、楽しみのある生活を再開でき、物忘れの進行を予防できる。	再び楽しみのある生活を送りたい。	3

※1 本書式は総括表でありアセスメントツールではないため、必ず別に詳細な情報収集・分析を行うこと。なお「状況の事実」の各項目は課題分析標準項目に準拠しているが、必要に応じて追加して差し支えない。
 ※2 介護支援専門員が収集した客観的事実を記載する。選択肢に✓を記入する。
 ※3 現在の状況が「自立」あるいは「支障なし」以外である場合に、そのような状況をもたらしている要因を、様式上部の「要因」欄から選択し、該当する番号(丸数字)を記入する(複数の番号を記入可)。
 ※4 今回の認定有効期間における状況の改善/維持/悪化の可能性について、介護支援専門員の判断として選択肢に✓を記入する。

※5 「要因」および「改善/維持の可能性」を踏まえ、要因を解決するための援助内容と、それが提供されることによって見込まれる事後の状況(目標)を記載する。
 ※6 本計画期間における優先順位を数字で記入。ただし、解決が必要だが本計画期間に取り上げることが困難な課題には、「一」印を記入。